

今日はね。

vol.3

漫画です。
エッセイ
これは

これは
試練です。

いい加減
髪を切らなくては
いけない状況
になりました

なんだかんだ
ずるずると
延ばして
いたのですが…

もうさすがに
いかんと思い
ましたがここで
一つ問題が
発生します。

梅雨もあるし。

私は美容院が
とつても
苦手なのです。

というか
接客されること
事態が苦手で

飲食店での
口頭注文なんて
もう罰ゲームの
気分です

よって美容院に
予約を入れる
電話はまさに
第一関門！

メモを準備し
番号を確認し
いざい！



番号を押して
途中で消すこと
数回。

電話を放棄し
他の作業に
移ること
数回。

電話をしようと
試みてから
既に一時間
以上が経過！

くじけるな！
私！



道のりは長し。

己の心を叱咤し

なんとか電話

無事予約をとることが出来ました



予想外のことを聞かれるようなこともなく

淡々と話したにも関わらず

緊張のため耳鳴りが開始。

私は極度に緊張すると耳鳴りがする人。



まだお店に行ってもいないのにこのありさま

先が思いやられます



少し時間があつたので昼食を済ませるも

やつぱり気は重いまま



のろのろと着替えをし支度が完了。

繰り返されるため息止まぬ耳鳴り

負けるな私!
本題は
まだ先だ!



恐縮です。

初めての
お店だったので
まずは
アンケートとか
答えながら
しばし順番を
待ちました

相変わらず
耳鳴りは続いて
いましたが

店員さんが
みんな女性
ということで
わりと落ち着いて
いました



店員さんと
相談して
カットと
縮毛矯正。

気遣って
話しかけて
くださるのに
なかなか
話が続き
落ち込みました



カットは
スムーズに
終わりましたが
縮毛は髪の
長さがあつたので

結構な時間が
かかりました

薬つけて
薬あとして乾かしてアイロン
かけてこのめの薬つけて
あこしたらまた乾かす。

作業量的にも
大変なのか
他の店員さんが
手があく度に
手伝い
きてくださり



まさかの 三人掛かりも。

ひー!!
私庶民なのに!

女優でも
モデルでも
ないのに!

女性に
囲まれるの
悪い気
しないけど...

何か申し訳 ないわ!



そしてのお話。

縮毛の結果
驚くほど
ストレートに
なりました

もとが癖つ毛
だっただけに
本当に驚愕



おそらく
数年ぶりに
髪をおろした
状態で外を
歩きました

髪すげい

なびく…風の抵抗

すら違う気が

するよ…

しかし

私が

この髪で

最初に向う用事が

コンビニローとか

どうなるの？

慣れない
感覚に
始終そわそわ
しました



しかしさらに
ビックリしたのは
その後でしたのは
縮毛をかけた後
二十四時間は
髪をむすんだら
出来なかつたため

翌日作業の
時に髪を
シユシユで
まとめた時の
ことでした

耳にかける
のモング

一日は

シユシユ

シユシユ

シユシユ

シユシユ



あまりの
ストレートのため
シユシユで髪が
まとめられず
床に落下

トイシとかに
落ちなくて
良かった。



こんなことがよくあります。

夕飯のサラダ用に
キュウリを切つて
いた時に
ふと思い出した
ことがありました

私は何かの拍子に
数年前のことや
先日のことを
思い出し
思い悩むことが
しよつちゅう
あるのですが

この時は
小学生の
家庭科の授業の
ことでした



調理実習で
サラダを作った
時のことです

私がキャベツの
千切りをしようと
すると先生が
実演して
くださったのですが
その際に...

千切りは
難しいんだよ

たたた

とおっしゃって
いました



おそらく
言葉通りの
意味であつて

何の他意も
なかつたので
しようが

難しいのは
やつちや
ダメなの？
私には
まだ早い
つてこと？

たたた

出来るように
なりたくて
やるのはダメなの？

先生に余計な
お仕事させて
しまったの？

などとぼんやり
考えていました。



思い出したら
もやもやする
ばかりでしたが

思い出した
ところで
どうすることも
出来ないし

どうしたいかも
正直まったく
わからなかつたので

せがっ



とりあえず
キュウリ
おもつきし
切つといた。

息だけを止めて。

生きている人間は
心臓が動いています
よって基本体が振動
しています

けれど絵を描いたり
習字をしたり
していると
少しでも体の
揺れを無くしたい
時があります

まっすぐな線を
ひいたりとか
色塗りで
細いところを
塗ったりとかね



そんな時
私は息を
止めます

心臓の振動は
止められません
(止めたら大変)
呼吸を止めれば
肺の動きで
体が上下するのは
止められます

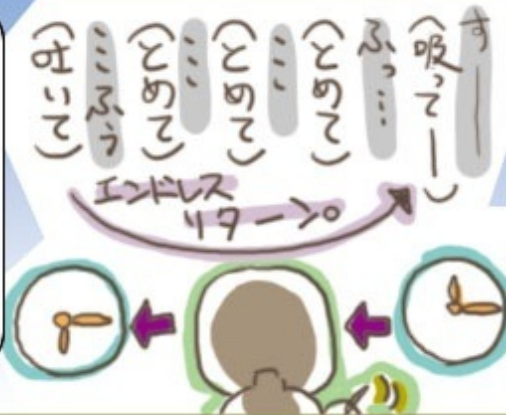
しかし問題は
その先です。



絵を描いていると
息を止めることは
度々あるわけで

さらに夢中で
描いていると
そんな状況で
6時間とかは
さらなものでは
ありません

もちろん合間に
呼吸はするもの
息を止めるのを
繰り返すので
その結果：



軽い酸欠に
なります。

呼吸!
深呼吸!







ここから先
立ち入る
べからず。

自分の作品を
発表する、
人目につく場所へ
置くことの
必要性というものを
いつからか
意識するよう
になりました

発表することは
私にとって
何よりもまず
手段です

自分の欲や
そこからくる
目的があります

表現方法
伝達の方法として
「描く」があつて
発表という手段を
選択しています

発表する以上
周囲からの
リアクションを
覚悟しなくては
なりません

以前、こんな
ことがありました

私の作品を見て
感想を言ってくれる
人がいました。

この作品に
○○のような
ものを感じる。
ルーツとして
○○があるんじや
ないかと思つたん
だけれど
どうなのかな？

私の作品について
助言をして
くれる人が
いました。

すごくいいです。
今日一番かも。
欲を言えば
作品に日付とか
入っていると
順番がわかつて
楽しいかもって
思いました。

その時の私は
何とも表現
しがたい気持ちに
なつてしま

結構失礼な
応答をして
しまったように
思います

今思えば
覚悟の認識
甘かったと
思います

余裕も
無かった

その後は
成長のために
助言を乞うようにも
なれましたが

たぶんあの時の
私は自分以外が
作品に関わつて
こようと
感じているように

それは心底
憎らしくて
許しがたい
侵略だったの
だろーと
思います。

私に変化があつたというより、彼女達のおかげで変わったのだと思うの。

今日はね。 vol.3

<http://p.booklog.jp/book/52740>

著者：童

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/hagurumawarashi/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/52740>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/52740>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ